

令和4年度第1回 今治市子ども・子育て会議 会議録

令和4年10月13日(木) 14:00~16:00

今治市中央公民館2階 第1会議室

令和4年度 第1回今治市子ども・子育て会議 会議録（概要）

1 日 時 令和4年10月13日（木） 14:00～16:15

2 会 場 今治市中央公民館2階 第1会議室

3 議 題 今治市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
今治市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて
今治版ネウボラ拠点施設整備の検討について

4 報 告 教育・保育部会について

5 出席者 【委 員】16名

泉浩徳委員、青井努委員、砂田ひとみ委員、小池由貴委員、
田中和英委員、龍田三津子委員、越智瑞啓委員、田中弘委員、
清水正恵委員、八木正史委員、田中嘉男委員、矢野信子委員、
梶原淳一委員、別府武士委員、重松仁美委員、ピアース恵利委員

【事務局】18名

こども未来部長、こども未来政策局長、障がい福祉課長、生活支援課長、
健康推進課長、こども未来課長、ネウボラ政策課長、保育幼稚園課長、
教育委員会事務局次長(兼)学校教育課長、福祉政策課長補佐、
こども未来課長補佐、ネウボラ政策課長補佐2名、
保育幼稚園課長補佐2名、保育幼稚園課企画係長、
生涯学習課社会教育係主事、ネウボラ政策課ネウボラ政策係主事

6 欠席者 【委 員】2名

日野郁子委員、松本義秀委員

7 会議内容

会 長	当会議の開会
会 長	新任委員の紹介 (青井努委員、田中和英委員、八木正史委員、重松仁美委員)

会 長	課長職以上の職員の紹介 (こども未来部長、こども未来政策局長、こども未来課長、ネウボラ政策課長、保育幼稚園課長、障がい福祉課長、生活支援課長、健康推進課長、教育委員会事務局次長(兼)学校教育課長)
会 長	議事録署名委員に越智瑞啓委員を指名
会 長	今治市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について説明を求める。
事 務 局	資料 1、資料 1-1・1-2 に基づき、第 2 期今治市子ども・子育て支援事業計画の令和 3 年度における確保内容と実績について報告。 (資料 1-2 については、基本目標ごとに抜粋して報告)
会 長	委員に質問意見等を求める。
砂 田 委 員	「子ども食堂」について、認定団体数、認定の基準や申請方法、また周知方法はどのようなになっているのか。
事 務 局	令和 3 年度に居場所づくりとして旧子育て支援課で補助金を創設した。令和 3 年は 4 件の団体に補助金を交付。広報で周知し、団体さんから窓口に来てもらい相談のうえ申請をしてもらった。 令和 4 年度については、生涯学習課で居場所づくりプラス学習支援として補助金を創設している。周知は広報、ホームページで行っており現在 3 団体承認している。また今治地域食堂連絡協議会と連携し、情報共有を図っている。
砂 田 委 員	子ども食堂の運営において、居場所づくりに学習支援がプラスされると、その分人材を養成しなければならず厳しい状況になる可能性がある。
青 井 委 員	こども家庭支援室が設置され、従来とどのように変わったのか。要保護児童対策地域協議会は実際に機能しているのか。
事 務 局	こども家庭支援室の設置に関しては、人員増強により、支援が必要な方に対して積極的にアウトリーチなど手厚い対応が可能になっていると考える。要対協については、それぞれの支援家庭に対して様々な機関が関与して支えていくべきであり、ケース会議等で情報共有、全体的な会議の場で

	情報の一元化を図り支援体制を構築している。
青 井 委 員	小児科の予防接種時に、気になる家庭がいれば市へ連絡をしている。市においても出産後に全戸訪問をし、ハイリスク妊婦・乳児のフォローをしているが、その後の連携が図られていないように感じる。
事 務 局	これまで中央保健センターにあった子育て世代包括支援センターがネウボラ政策課内へ移動し、児童虐待対策係と一体となつてこども家庭支援室になったことで密な連携体制が構築できたと考える。小児科医を含めた全体の連携については課題としてこれから取り組んでいきたい。
越 智 委 員	量の見込みでは、待機児童がいなくなっているが、兄弟の場合、下の子が上の子と同じ保育園に入れない現状がある。兄弟の場合、入所の選考基準となる点数を上げることはできないか。一時預かりを利用して何とか同じ園に通わせている例もある。このあたりの見直しをしていただきたい。 虐待などの発生を最小限にするための支援員を育成するために、講習会を開くなど今治市特有の制度をつくるのはどうか。 子ども食堂について、この団体でこんな食材が足りませんよという情報を市のホームページでお知らせできないか。 産後うつが発見は難しいと思うが、第三者の観察等どのようにしていくのか。 不妊治療の助成も大切だが、出産費用の支援をする予定はあるのか。
事 務 局	兄弟が別の保育所になるという件に関しては、令和 5 年度より点数を見直し、兄弟が別々の施設に入ることがなるべくないように取り組む予定である。 一時預かりの件に関しては、保育士不足に対する取り組みとして労働環境の改善に取り組み、待機児童の解消に繋がりたいと考えている。 虐待の早期発見のため、支援する人材は大切であり、明德短期大学と地域で人材育成、地域に輩出、そして地域を良くするような循環環境に向けて、先生方とも相談させていただきたい。 産後うつに関しては、特定妊婦として保健師は把握し、医療機関と連携して情報共有をしている。対象の方にはプッシュ型・アウトリーチで積極的に声をかけ、様々なイベントに顔を出していただくよう呼びかけることで孤立を防ぐため着実に実施していきたいと考える。

	不妊治療については、今年 4 月から保険適用となったが非常に多額のお金がかかるものである。出産費用に関して、出産一時金の 5 万円ほどアップに向けての話が出ているが、市独自の施策としては、国の動きを注視しながら負担軽減に向けて検討し、今治市の出生数の一助になればと考えている。 子ども食堂の件に関しては、地域食堂連絡協議会において各団体の情報を収集し、ホームページの掲載についても検討したい。
越智委員	令和 5 年度から始まるこども家庭庁において、保育を必要としないお子さんであっても、親のリフレッシュというような場合に預からないといけなくなる。そうすると線引きができず、預かることも難しくなる。そこでこどもは大切なんだという意識を市民に持ってもらえれば、虐待やヤングケアラーといった問題もなくなっていくのではと思う。そのあたりも考慮しながら取り組んでいただきたい。
ピアース委員	アメリカでは、高校生が授業の一環で子どもを預かり、親がその時間リフレッシュできるという制度があったがこのようなことはできないか。
会長	明德短大でも子育て広場やお出かけ児童館を定期的に行っているが、親子で参加することになっている。 幼児教育に興味を持ってくれる学生が減っており、これから養成校がだんだんと減少してしまう状況になると想定される。潜在保育士の掘り起こしなど、保育士の確保について実際どう進んでいるのか。
事務局	検討はしているところだが、目に見える形での効果はなかなか出てきてはいないのが現状である。地道に取り組んでいきたい。
会長	県の修学資金貸付や、リカレント訓練校など社会人も入学しやすい環境を整えることも必要かと思う。
ピアース委員	中学生の親御さんから「保育士はやめとき」という声を聞いたことがある。広報番組等で保育士のイメージアップにつながるようなことはできないか。
事務局	広報番組での周知についてはこれから検討したい。保育士は、非常に重要な仕事であり、子どもだけでなくその家庭と向き合わないといけない局

	面が多々ある。着替え時の体のチェックなど虐待の兆候を発見したりと、保育所、幼稚園、認定こども園の役割が大きくなっていくと思われることから、保育士の問題について総合的に検討していきたい。
龍 田 委 員	保育士の正規職員を増やし、余裕を持った職員配置ができないか。3歳児健診と就学前健診の間を埋める、4歳半、5歳児健診のシステムができればよいと思う。
事 務 局	職員配置の余裕がないと、いろいろな問題・トラブルが起きることもありうる、できることから取り組みたい。職員採用に関しては、本年度から社会人枠を設け、5年以上経験がある職員の採用に向けて制度改革等も行っており、経験者採用も視野に入れて取り組んでいる。 現在、発達支援センターが巡回相談など各機関と連携をとり対応している中で、ワーキンググループを立ち上げネウボラ計画の中で、どのように補っていく体制を構築するか、また人材育成をしながら対応していく必要があるという中で検討中である。早期実現を目指して取り組みたい。
会 長	今治市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、承認を求める。 (拍手により承認される) 次に、今治市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて、関連報告の教育・保育部会についても合わせて事務局に説明を求める。
事 務 局	資料2-1・2-2に基づき、第2期今治市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて説明。 資料3に基づき、令和4年度第1回今治市子ども・子育て会議、教育・保育部会について報告。
会 長	委員に質問意見等を求める。 今治市子ども・子育て支援事業計画の中間見直し、関連報告の教育・保育部会について、承認を求める。 (拍手により承認される)

	次に今治版ネウボラ拠点施設整備の検討について説明を求める。
事務局	資料４に基づき、今治版ネウボラ拠点施設整備の検討について説明。
会長	委員に質問意見等を求める。
越智委員	整備する場所や集約する機能の決定はいつごろになるのか。
事務局	まだ具体的な場所、規模感については皆様のご意見をいただきながら検討している段階だが、できれば市内中心部の市の空いている土地を有効活用しながらと考えている。
越智委員	整備場所等に関しては、早めに市民にもお知らせした方がよい。市内中心部の拠点だけでなく、イオンモールの空きスペースなどをネウボラの副拠点として使えないか。
事務局	ショッピングセンター等の空きテナントを活用した、施設の有効活用といった案もありつつ、まちなかの賑わいも失われていることに対して何とかしなければならない。特に人口減少により、都市機能をできるだけひとつところに中心部に集約するというコンパクトプラスネットワークの概念も今治市のまちづくりの中で必要とされている。ワンストップでやるとなると、果たして現在のショッピングモール等で望むものができるのかも含めて、様々な見地から検討する必要がある。ひとつ街の拠点としてのネウボラ施設、そして市民にとって気兼ねなく相談できる位置づけとしてサテライトを市民の声が届きやすいところに設けたいと考えている。
会長	明德短期大学にも空き地がたくさんある。ぜひサテライトとして活用してほしい。
青井委員	乳児期で一番お母さんが困っているのは、離乳食のこと。ぱりっこ広場などの子育て広場で、育児相談に加え、先輩お母さんと一緒に集まり、離乳食について相談し合い、そこに栄養士がコーディネーターとしてアドバイスができるような場があればどうか。
事務局	現在の中央保健センターには、残念ながら親子で遊べるようなスペース

	がない。子どもを遊ばせながら、ついでにお母さんが相談して帰れるような施設、コンセプトについて参考にさせていただきたい。
砂 田 委 員	障がいのある子どもをお持ちの方が親子で集まれる場所も作ってほしい。災害時の避難場所にもなるとよい。 相談窓口は、時間外や土日祝日などはどうなるのか。
事 務 局	障がいを抱えた子どもも一緒に遊べるようなインクルーシブな遊具や、小さい子どもから、中学生、高校生の居場所、また多世代が楽しめるような場所を目指して検討しているところ。また、なかなか他の子どもと一緒に過ごすことが難しい場合には、分離しながら居場所をとということも大事だと思っている。皆様からの声を反映させる形で考えていきたい。 相談窓口については、現在は平日業務になっている。虐待については 189 というようなホットラインもあるが、今後拠点施設ができた場合には、利用者に合わせた使いやすい時間帯、休日対応についても検討したい。
別 府 委 員	当然子育て支援が前提だと思うが、家族支援という視点を取り入れて、できれば高齢者、障がい者のための機能的な役割も一緒に補うことができれば便利だと思う。
事 務 局	支援に関しては、家族支援、全世代の福祉という形になると思うが、今治市として福祉の向上に努める中で、すべての施設となると規模感、土地の問題、施設の制約等様々な課題がある。その中で何を優先して集約していくのが良いのか、そのようなニーズにどこまで対応できるのか、可能な限り市民に寄り添った対応ができる施設にしていきたい。
田中(嘉)委員	子育てについて、以前は地域社会、隣近所で見守りながらというのが普通だったが、今はなかなかそのようにはいかない。そんな中で本当に子どもたちへの支援をいろいろな方面で各団体の方がされていて、その中核としての施設を立ち上げるということであると思う。 保育士の必要性・重要性や、今治市で行っている大切な子どもを育てる環境づくりについて市民の人にわかるように PR していったほしい。
会 長	大学で卒業生や OB が集まって市民と一緒に研修会を行ったり、地域の発信していくというようなことにも今後取り組んでいきたい。

田中弘委員	少子高齢化は大きな問題であり、自治会においてもいろいろな課題が出てきている。やはり、子育て支援事業に十分力を入れていただきたいと思う。
梶原委員	マイナンバーカードの取得について積極的に働きかけていただいたことで、施設に入所している子どもたちの身分証明書ができた。 保育士になるために、実習で児童養護施設を選んでくれる学生もいるがなかなか就職は難しいのが現状。近年は、施設のコロナ対応が非常に大変で、厳しい管理が続いている。一時保護的な入所となる児童は多く、受け入れる場所を確保しなければならないと思う。
田中(和)委員	相談に来る親御さんの中には、自分の困っていることを整理できていない、何をしたらいいのかわからないという方もいる。まずは話を聞いて一緒に考えて、ここに一緒に行ってみましょう、ここに連絡してみますねというような相談の受け方を心掛けてほしい。それだけでほっとする親御さんもいる。場所だけではなく、相談の受け方もワンストップにふさわしいものになっていけば良いと思う。
小池委員	今治市は島しょ部もあり市域が広いので、拠点だけではなくアウトリーチ、訪問する機能を合わせて、専門職と繋がって相談できるというような体制について社協も一緒に考えていければと思う。
会長	やはり、拠点等に来られないお母さんへの対応についてしっかり考えてほしい。
八木委員	私自身、今治市で、行政やさまざまな団体が子どもの成長に関わってくれているということをこの会議に出席するまで知らなかった。保護者への情報共有は大切だと思うので、PTA 連合会においても協力していきたい。
重松委員	集約をして大きな拠点を 1 つのというのも大事かと思うが、子育て支援拠点が 9 か所あるのはとても魅力的で、各地域（小学校区）に 1 ヶ所ずつくらい 0 歳から 18 歳まで通えるところがあれば良いと思う。子どもが通いやすい場所であれば、大規模災害時の避難所としても活用できるのではないと思う。
事務局	拠点施設とともに、地域の中で相談できる場所、子どもたちの居場所は

	事である。拠点施設とサテライト機能としてどのように展開していくか参考にさせていただきたい。
会 長	今治版ネウボラ拠点施設整備の検討について、承認を求める。 (拍手により承認される)
会 長	その他に進み質問意見等を求める。
矢 野 委 員	少子化と言われているが、支援が必要な子どもの数は毎年増えている。障がい者福祉サービスについても使いやすいサービスの運営をお願いしたい。
会 長	発達障がい児や、ボーダー、グレーゾーンの子どもたちの支援の仕組みがうまくできていないように思う。ぜひ今治市独自の制度等を考えていただければと思う。 当会の閉会

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長 泉 浩 徳 

署名委員 趙 智 玉 瑞 玲 